

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成27年5月21日(2015.5.21)

【公開番号】特開2015-27619(P2015-27619A)

【公開日】平成27年2月12日(2015.2.12)

【年通号数】公開・登録公報2015-009

【出願番号】特願2014-230569(P2014-230569)

【国際特許分類】

A 6 1 B 1/267 (2006.01)

A 6 1 B 1/273 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 1/26

【手続補正書】

【提出日】平成27年4月1日(2015.4.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ハンドルと、

このハンドルに対して回転可能に取り付けられているとともに、視認手段を有した、長尺のブレード保持部材と、

このブレード保持部材に対してスライド可能とされた取外し可能なブレードと、を具備し、

前記咽喉鏡が、さらに、少なくとも 2 つの異なる取外し可能なブレードを具備し、

少なくとも 1 つの前記ブレードが、前記視認手段の視野を調整する手段を有していること
とを特徴とする咽喉鏡。

【請求項 2】

前記ブレードが、スリーブ部分および遠位延長部を備える、請求項 1 に記載の咽喉鏡。

【請求項 3】

前記取外し可能なブレードが、前記遠位延長部の先端部の方へ気管内チューブを案内する手段をさらに備える、請求項 2 に記載の咽喉鏡。

【請求項 4】

前記視認手段が、前記ブレード保持部材の遠位端部に位置する少なくとも 1 つの固定のカメラを備える、前記請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の咽喉鏡。

【請求項 5】

前記視野を調整する前記手段が光屈折手段を備える、請求項 4 に記載の咽喉鏡。

【請求項 6】

前記光屈折手段がプリズムまたはウェッジプリズムを備える、請求項 5 に記載の咽喉鏡。

。

【請求項 7】

前記視認手段が、少なくとも 2 つの異なる視野へ向けた少なくとも 2 つの固定のカメラ部材を備える、請求項 1 から 4 のいずれか 1 項に記載の咽喉鏡。

【請求項 8】

一方のカメラから他方のカメラへ切り換える手段をさらに備える、請求項 7 に記載の咽喉鏡。

【請求項 9】

前記視認手段が、可動式のカメラ部材を備える、請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の喉頭鏡。

【請求項 10】

前記カメラの動きを制御する機械的または電子的手段をさらに備える、請求項 9 に記載の喉頭鏡。

【請求項 11】

前記ブレードの前記スリーブの遠位端部が、使用時に前記カメラが前記患者の前記喉頭口を視覚化するように位置決めされるように配された窓を備える、請求項 9 に記載の喉頭鏡。

【請求項 12】

請求項 1 に記載の喉頭鏡を使用して患者の喉頭口を視認する方法であって、
この方法においては、
対象をなす患者に応じて、患者の咽頭口を視認するのに適切なブレードを決定し、
選択されたブレードを取り付け、これにより、視野の角度を所望の角度に調整する、
ことを特徴とする方法。

【請求項 13】

前記咽頭鏡の前記視認手段が、少なくとも 1 つのカメラ部材を備え、前記ブレードが、
前記カメラの光路の向きを変えることが可能な光屈折手段を備える、請求項 1 2 に記載の
方法。

【請求項 14】

前記咽頭鏡の前記視認手段が、少なくとも 2 つのカメラ部材を備え、前記視野が、一方
のカメラから他方のカメラへ視界を切り換えることによって調整される、請求項 1 2 に記
載の方法。

【請求項 15】

前記咽頭鏡の前記視認手段が、少なくとも 1 つのカメラ部材を備え、前記視野が、前記
カメラを動かすことによって調整される、請求項 1 2 に記載の方法。